

<<こちらは書籍の第1章～3章までのお試し版です>>

本書をお読みいただきありがとうございます！

こちらは、現在、有料で発売中の書籍
 「2時間でExcelマクロの基本がわかる
 VBA超入門」の第1章～3章までを読む
 ことができる『お試し版』です。



お試し版と有料版の書籍の比較

	お試し版 (この本)	有料版の書籍 (Amazon で販売中)
内容	3章まで 約28ページ	12章まで 約117ページ
フォーマット	PDFのみ	ペーパーバック(紙の本) Kindle電子書籍
読者特典	なし	あり たった1行のコードで仕事に 役立つマクロ集(18以上)
動画や教材ファイルへのリンク	なし	あり

有料版の書籍をお求めの方は、Amazonにてお求め下さい。

<https://amzn.to/3WFZHuQ>



それでは、今後よろしくお願いします！
 たてばやし淳

はじめに

こんな[薄い本]を作りたかった！ 2時間でわかるマクロの本



こんにちは。たてばやし淳（通称エクセル兄さん）と申します。

私は、20代では「**地獄のトリプルワーク時代**」があり、昼はIT企業で働き、夜は学習塾で講師をし、土日やスキマ時間では経理や事務仕事をするという日々を過ごしていました。「このままでは休む間もない…」と悩んでいた時、マクロなどの自動化スキルを学び、フル活用することで、時間の余裕を生み出すことができるようになりました。

その経験から、「多くの読者にも、マクロで仕事を自動化してラクにする方法を伝えたい」という想いから、マクロ関連の書籍を執筆して参りました。

■ 2時間で、最低限の知識がサクッと身につく本を届けたい！

ですが…これまでの執筆活動にも反省点がありました。

それは、『今まで執筆したマクロの本は、丁寧すぎてページ数が多くなってしまい、本が分厚いので、入門者にはハードルが高く感じられてしまう』ということです。（2冊とも約400ページに達してしまいました）

そこで私が考えたのが、今回の「薄い本」というコンセプトです。

- もっとページ数を少なくして、入門者が手に取りやすい本を作りたい！
- 2時間でマクロの最低限の知識がサクッと身につく本にしたい！

以上のような想いから、本書を執筆するに至りました。

■40 万回再生された動画から生まれたテキスト

本書は、私が過去に YouTube に投稿した 1 つの動画をきっかけに生まれました。

その動画は、世間がコロナ禍に突入したばかりの時期に、
「コロナ禍でも、自宅でマクロに入門できる動画を提供したい」
と考えて企画したものでした。

- 2 時間で見れる
- マクロと VBA の基礎をざっくり速習できる
- 12 章で体系づけたカリキュラム

このようなコンセプトで動画を公開したところ、大変好評をいただき、現在までに 40 万回再生されています。

本書は、その動画をもとに、全て原稿に書き直したものです。

■QR コードから動画レッスンを見れる！

本書は、各章のはじめに QR コードと URL を記載しています。

<<※お試し版なので QR コードと URL はありません。>>

そこから動画レッスンを開いて、動画を見ながら学習することもできます。

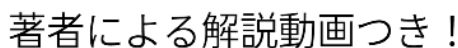
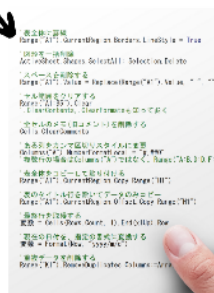
したがって、2 通りの学習方法があります。

- ① **動画レッスンで学習**してから、書籍であらためて内容を確認する。
- ② 書籍を読んでから、**わからない部分を動画レッスンで学習**して理解を深める。

どちらも可能ですので、自分に合った方法で学んで下さい。

それでは、本編でお会いしましょう！

たった1行のコードで
仕事に役立つ！
すぐ使える1行マクロ集



『たった1行のコードで仕事に役立つ！すぐ使える1行マクロ集』

をプレゼントしています。(印刷可能なPDF資料と+著者による解説動画つき！)

例えば、以下を含む 18 以上のワザを紹介しています。

- 一発で表全体に「罫線」を引く 1 行コード
- 一発でシートの図形を全て削除する 1 行コード
- 一発でシートを PDF 出力する 1 行コード
- 一発でフィルターを使ってデータ抽出する 1 行コード
- 一発でデータを並べ替える 1 行コード
- その他、全 18 のコード

<<※こちらはお試し版なので読者特典はありません。>>

お試し版 はじめに	0
はじめに こんな薄い本を作りたかった！2時間でわかるマクロの本	1
【もくじ】	4
第1章 超入門「マクロ」って何ができるの?	5
第2章 「マクロの記録」&VBA って何だろう?	8
第3章 最初のVBAと「オブジェクト式」～VBAのコードの基本.....	17

(※お試し版につき、以下は収録されていません。)

第4章 VBA 初心者におすすめの設定5つ	
第5章 演算と変数 ～面倒な計算は、マクロにやらせよう	
第6章 繰り返し(For～Next 構文) ～退屈な繰り返しはマクロに任せる	
第7章 最終行の取得 ～データが1000件あっても自動処理する！	
第8章 条件分岐 ～柔軟なマクロを作るための第一歩！	
第9章 メソッド ～クリア・コピー・データ抽出も簡単コードで！	
第10章 シートとブックの操作 ～一步上のマクロづくりの入口	
第11章 With～End With 構文 ～コードを省略してスッキリに！	
第12章 VBA 関数 ～難しい処理も1行コードで！	
あとがき もっと魅力的なマクロの世界	
読者特典「たった1行のコードで仕事に役立つマクロ集(18以上)」	

第1章

超入門「マクロ」って何ができるの？



教材ファイル
レッスン動画



レッスン動画はこちら >> **お試し版なのでリンクはありません**

1-1 マクロは、一連の操作を1ボタンで自動的に片付けられる！

実行ボタン



CSVファイル 取り込む シートに分割



「マクロって何ができるの？」という質問をよくいただきます。
そんな時は、「一連の操作を1ボタンで自動的に片付けられます！」と答えます。

例えば、日々の仕事で、以下のような定形業務があるとします。

- ①CSV ファイルをExcel に取り込む。(インポート)
- ②[単価] × [数量] を計算し、[金額] 列に入力する。
- ③もし[金額]が3,000 円未満なら [送料]に「300 円」と入力する。
- ④特定の商品分類だけをフィルター機能で抽出する。
- ⑤上記④の結果をコピーして、別シートに貼り付ける。
- ⑥上記⑤の表に、罫線や色などを適用してスタイルを整える。

…いろいろと面倒な作業がたくさんありますね。

しかし、マクロを使いこなせば、こうした業務を、ボタン1つで数秒で済ませることも可能です。

1-2 マクロを使う3つのメリット

さらに、マクロを使う具体的なメリットを3つご紹介します。

■メリット①一度作ったら何度も使い回せる

一度マクロを作ってしまうと、何度でも繰り返し利用できます。
したがって、過去に作ったマクロが、その先も仕事を楽にしてくれる資産になります。

■メリット②短時間で作業が終わる

マクロを利用すれば、手作業でExcelを操作するよりもはるかに速く処理することができます、時間を短縮し、早く終わらせることができます。

■メリット③ミスが起こりにくい

人間は「うっかりミス」や「見落とし」をすることがありますが、マクロは決められた処理を正確に実行することができます。

1-3 マクロの使い方を学んで、働き方が変わった！

Excelの奴隷



マクロで自動化



私自身も、マクロのおかげで救われた過去があります。

(20代では「地獄のトリプルワーク時代」があったことを「まえがき」にも書きました。)

私以外にも、私の開催した「VBA 塾」というスクールの卒業生から、以下のような感想をいただいています。

- 毎日の業務日報やレポート作成を自動化できた！
- お客様からくるデータから必要なデータだけ取り出して分析する作業を自動化できた！
- 小1時間かかっていた書式設定(17社分)が、**たった30秒でできるようになった！**
- 自分の仕事だけでなく他部署の業務も効率化することができ、上司にも褒められた！

このような「**マクロのおかげで働き方そのものが変わった！**」という体験を、多くの人に共有したいと感じ、私はマクロの使い方を伝える活動をしています。

ぜひ、本書と一緒にマクロの使い方を学び、大いに活用していきましょう。

第2章

「マクロの記録」 & VBA って何だろう？



教材ファイル
レッスン動画 ➡



教材ファイル&レッスン動画はこちら >> **お試し版なのでリンクはありません**

[教材ファイル]

「第2章.xlxs」を使用します。

2-1 「マクロの記録」コードを書かずにマクロを作ってみる！



①操作



②記録



③完成！

「マクロの記録」という機能で、最も簡単にマクロを作成することができます。
この機能では、**コードを書く必要はありません**。Excel 上で操作した手順を記録して、自動的にマクロを作成してくれます。（ただし、使える状況が限られているので、万能ではありません。）

2-2 「マクロの記録」を使ってみよう

それでは、試しにマクロを記録してみましょう。

今回は、以下のような作業をイメージしてマクロを作ります。

[単価] × [数量] → [金額]

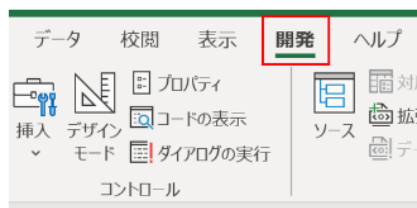
	A	B	C	E	F	G	H	I
1	購入ID	日付	氏名	商品名	商品分類	単価	数量	金額
2	1	2019/1/1	相川菜恵子	Wordで役立つビジネス文書術	Word教材	3,980	2	
3	2	2019/1/2	長坂美代子	Excelデータ分析初級編	Excel教材	4,500	2	
4	3	2019/1/3	長坂美代子	パソコンをウィルスから守る術	パソコン書	3,980	1	
5	4	2019/1/4	篠原哲雄	Wordで役立つビジネス文書術	Word教材	3,980	1	
6	5	2019/1/5	布施寛	超速タイピング術	パソコン書	4,500	1	

【マクロの概要】

[単価] × [数量] を計算し、その結果を[金額]列に代入する。

■0. 「開発」タブを表示させておく

その前に、Excelで「開発」というタブが表示されていない場合は、表示させておきましょう。マクロ開発では非常に便利なボタンが詰まっているタブなのですが、Excelの既定の設定では表示されていません。



- ・ マクロづくりに便利
- ・ [ファイル][オプション]>
→ [リボンのユーザー設定]
→ ☐ 開発 [OK]

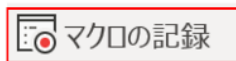
【手順】

- ・ [ファイル]>[オプション]>[リボンのユーザー設定]
- ・ 右の枠の「開発」にチェックを入れて「OK」

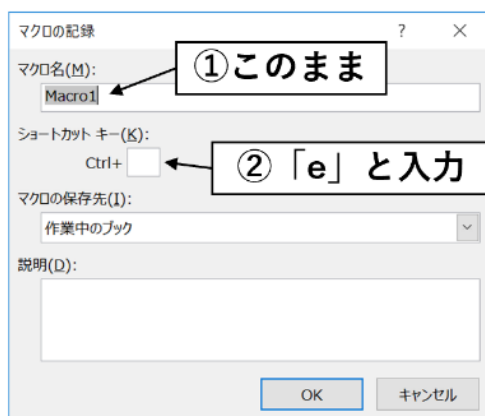
■1. 「マクロの記録」 ボタンを押し、Excel を操作する

[1]セル I2 をクリックして選択しておきます。

[2][開発]タブの「マクロの記録」 ボタンを押しましょう。



[3]以下のように「マクロの記録」 ウィンドウが表示されます。



①「マクロ名」

マクロに名前を付けることができます。

ここでは、既定の「Macro1」のままにしておいて結構です。

②「ショートカットキー」

マクロを記録完了した後、ショートカットキーで実行できるようにする設定です。

使わない場合は空欄のままで構いません。

ここでは、ために「e」と入力しておきましょう。

すると、マクロを記録完了した後、Ctrl+E キーを押すと、マクロを実行できるようになります。

■[補足]

もともと Excel で「Ctrl+E」のショートカットキーを押すと「フラッシュフィル」という機能が起動するようになっていました。しかし、マクロの記録でショートカットキーを設定すると、同じ「Ctrl+E」を押しても、マクロが優先して実行されるようになります。注意しましょう。

■2.セル I2 に数式を入力して「Enter」

F	G	H	I	J
商品分類	単価	数量	金額	送料
Word教材	3,980	2	=G2*H2	
Excel教材	4,500	2		

セル I2 に、以下の数式を入力します。

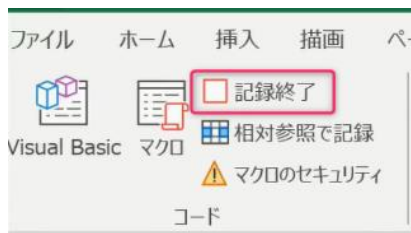
=G2*H2

そして Enter で確定します。

この数式は、[単価] × [数量] を掛け算する数式です。

結果としてセルに「7960」と表示されます。

■3.「記録終了」をクリックする



先ほどの「マクロの記録」と同じ位置のボタンに「記録終了」と表示されているので、このボタンをクリックします。すると、マクロの記録が終了します。これで、記録が完了しました。

■4.マクロを実行してみる（Ctrl+E）

先ほど、マクロにショートカットキーを設定しましたので、**Ctrl+E**を押せばマクロを実行することができます。試しに、実行してみましょう。同じI列のいずれかのセルをクリックして選択してから、**Ctrl+E**を押します。

	F	G	H	I	J	K	L
	商品分類	単価	数量	金額	送料		
	Word教材	3,980	2	7960			
	Excel教材	4,500	2	9000			
	パソコン教	3,980	1				
	Word教材	3,980	1				
	パソコン教	4 500	1				

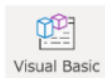
いかがでしょうか？

先ほどと同じように数式が代入され、金額が計算されました！
記録したマクロが実行されたという事です。

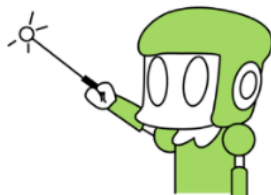
2-3 VBA のコードを見てみよう(VBE の起動)

記録したマクロは？

VBEという編集ツールで中身を見られる



(Alt+F11キー)



では、記録されたマクロの中身は、どんな仕組みになっているのでしょうか？
これから、マクロの中身の「VBA」をのぞいてみましょう。

■[開発]タブの[Visual Basic]ボタンをクリック

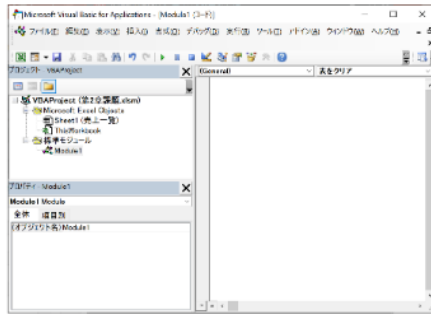


なお、ショートカットキー「Alt + F11」でも同様の操作ができます。今後、何度も使用することになるので、ゆくゆくは暗記してしまいましょう。

■VBE（編集ツール）が起動する

以下の図のような画面が起動します。

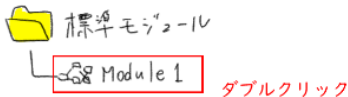
これは、「VBE」というツールです。主に VBA のコードを編集(Edit)するために使用します。「Visual Basic Editor」の頭文字を取って「VBE」という略称で呼ばれています。



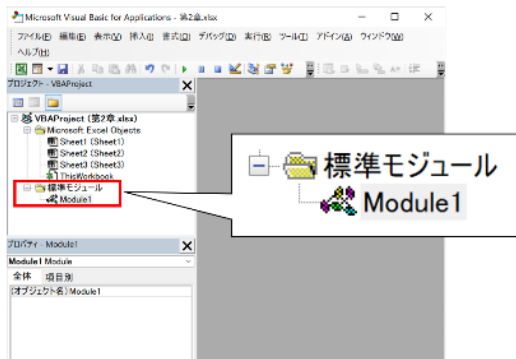
■標準モジュールの「Module1」を開く

コードを見るには？

「標準モジュール」から開こう



以下の部分に「標準モジュール」というボタンがあるので、その左にある「+」をクリックして中身を開きます。そこには「Module1」というものが作られているので、それをダブルクリックします。



■VBA のコードが表示される

以下のように、英語のようなコードが表示されます。これが、マクロの設計図である「VBA」という言語です。

※今は、この内容を理解する必要はありません。

「マクロの中身はこうなってるんだな」

と、なんとなく感じていただければ今は結構です。

```
Option Explicit
Sub Macro1()
    '
    ' Macro1 Macro
    ' Keyboard Shortcut: Ctrl+e
    '
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "=RC[-2]*RC[-1]"
    Range("I3").Select
End Sub
```

■なんとなく意味を推測してみよう

以下の1行に注目してみましょう。

```
Range("I3").Select
```

上記は、『I3 というセルを選択する』という意味です。

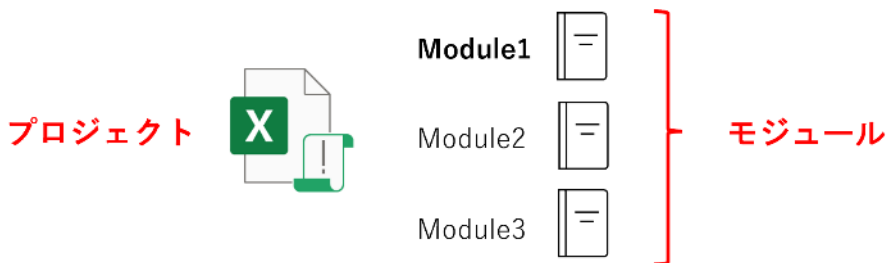
英語で「Range」＝「範囲」、「Select」＝「選択する」という意味なので、何となく意味を推測することができますね。

今の段階では「何となく」でしか理解できませんが、さらに VBA の文法やルールを覚えれば、1行1行の意味を理解できるようになります。

■VBA を書く場所はここ！「モジュール」という保存単位

ところで、先ほど開いた「Module1」とは何だったのでしょうか？

実は、「Module1」や「Module2」といった名前のファイルのようなものを「モジュール」といいます。モジュールとは、コードを書いて保存するための文書ファイルみたいなものだと思って下さい。



1つのExcelブックに保存されるマクロの全体を「プロジェクト」と呼びます。その中に、「モジュール」という文書ファイルのようなものに分けてコードを保存することができます。

今回の操作では、マクロの記録を行うことで、「Module1」という名前のモジュールが自動的に作成されました。

ですが、場合によっては、「Module2」「Module3」のように複数のモジュールを作成することもあります。

■ここまでのまとめ

VBA のコードは、以下の操作で開くことができます。

[1] VBE という編集ツールを開く

([開発]>[Visual Basic]、またはAlt+F11)

[2] 「標準モジュール」のModule〇(〇に数字が入る)を開く

次章からは、VBA のコードの意味を理解しながら、自分で書くことができるように学習していきましょう。

第3章

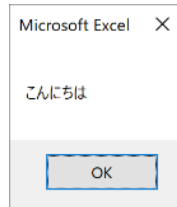
最初のVBAと[オブジェクト式]
～VBAのコードの基本教材ファイル
レッスン動画QR
コード教材ファイル&レッスン動画はこちら >> **お試し版なのでリンクはありません**

[教材ファイル]

「第3章.xlsm」を使用します。

3-1 メッセージボックスを出力してみよう

■メッセージボックスを出力する



それではいいよ、VBAのコードを直接記述してみましょう。

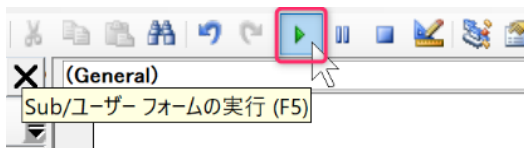
まずは、VBAを学習する上で「お約束」とも言える、「メッセージボックス」を表示させるコードを記述してみましょう。

VBEを起動して、「Module1」を開き、以下のコードを書いてみましょう。

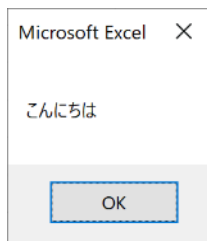
```
Sub Aisatsu()  
    MsgBox "こんにちは"  
End Sub
```

入力できたら、**実行ボタン**をクリックします。

(※以降、マクロを実行する時にはこの実行ボタンを押しましょう。
キーボードの[F5 キー]でも実行できます。)

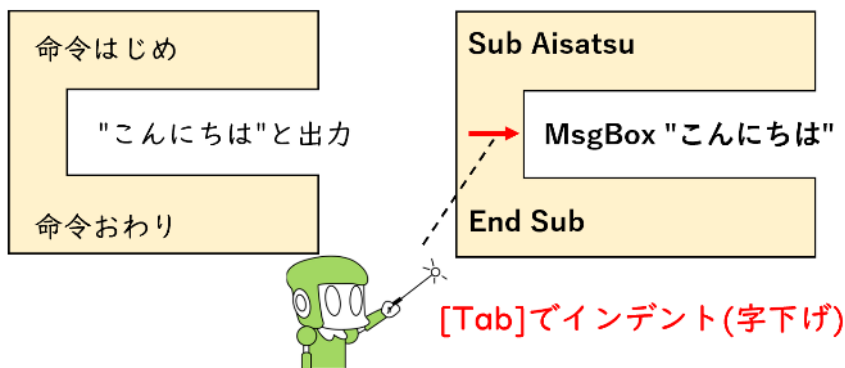


すると、下図のようなメッセージボックスが表示されます。



■コードの中身を理解する

命令ははじめ～おわり = 「プロシージャ」という



まず、上下にあるコードを見てみましょう。

```
Sub Aisatsu()
```

```
End Sub
```

上下を「Sub」～「End Sub」で挟んでありますね。これがコードの1つの塊（かたまり）を意味していて、「**プロシージャ**」と呼びます。「プロシージャ=1つの動作をするマクロ」と考えてしまってよいでしょう。

コードを書くときは、基本的に「Sub」～「End Sub」で上下を挟んで、その間にコードを書きます。（手紙でいうと「拝啓」～「敬具」のようなイメージですね）

また、`Sub Aisatsu()`と書きましたが、「Aisatsu」とは、そのプロシージャの名前のことです。（このような名前を「プロシージャ名」と呼びます。）プロシージャ名は、日本語でも英語でも自由に決めることができます。

[書式]

```
Sub プロシージャ名()
```

```
    ' 中に処理を書く
```

```
End Sub
```

[補足]

プロシージャ名の後ろの「`()`」は、今は定型文のようなものだと思っていて構いません。中級レベルになると、「`()`」の中に「**引数**」というものを書く場合もあります。しかし、初級レベルではほとんど使うことはありません。

■ MsgBox 関数

次に、「Sub」～「End Sub」の中のコードにも注目してみましょう。

```
Sub Aisatsu()
```

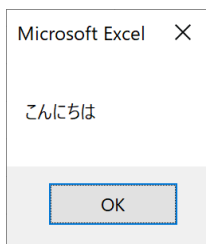
```
    MsgBox "こんにちは"
```

```
End Sub
```

上記の「`MsgBox "こんにちは"`」というコードの意味は、「**メッセージボックスで、"こんにちは"と出力して下さい**」という意味です。このようなコードを「**MsgBox 関数**」とい

います。

実行すると、メッセージボックスが出力されます。



また、今回、**"こんにちは"**のように「"」（ダブルクォーテーション）で挟んでメッセージ内容を記述しました。""で囲った場合、データが「**文字列**」であることを示します。

今の時点では深く考え過ぎず、

「MsgBox 関数を使うときは、メッセージ内容を""で囲って記述する」
と覚えておきましょう。

[補足]

Excelのシート上で数式や関数を書くときにも、文字列は「"」で挟むというルールがあります。VBAでも同様です。

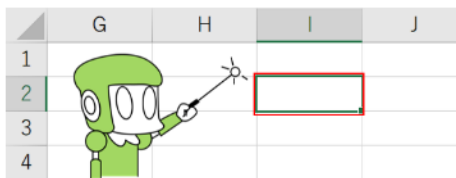
3-2 セルの値を操作するには？

続いて、セルの値を操作するコードの書き方を解説します。

■「Range(場所)」でセルを指定する

セルI2を操作したい！

Range("I2")



あるセルを指定するには、「Range(場所)」といった形式で記述します。

[書式]

Range(場所)

[例]

Range("I2") 'セル I2 を指定する

()の中には"I2"のようにセルの場所を記述します。このとき、「"」(ダブルクォーテーション)で囲って、文字列として指定することを忘れないようにしましょう。

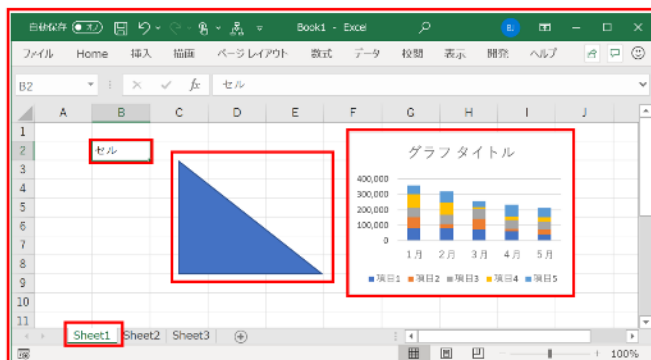
■操作したい対象＝「オブジェクト」

VBAにおいて、操作したい対象を「オブジェクト」といいます。

オブジェクトには、「セル」や「シート」や「グラフ」など、様々なものが含まれます。

[図] これらは全て「オブジェクト」です

- ・ セル
- ・ 図形
- ・ グラフ
- ・ シート
- ・ ブック
- ・ etc...



先ほど「Range()」というコードで、「セル」を指定しました。

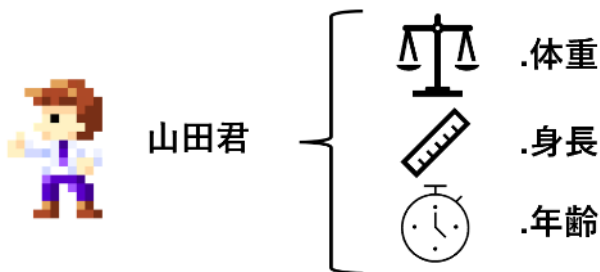
「セルも、オブジェクトの1つである」という点を押さえておきましょう。

[補足]

なお、正確には、セルを示す「Range オブジェクト」という名前があります。

■オブジェクトの状態＝「プロパティ」

対象（オブジェクト） 状態（プロパティ）



さらに、オブジェクトは、様々な「状態」を持っています。
それを「プロパティ」と呼びます。

例えば、以下の例について考えてみましょう。

山田君. 体重
山田君. 身長
山田君. 年齢

もし「山田君」というオブジェクトがいるとしたら、山田君の体重や、身長や、年齢といった状態（プロパティ）を調べたり、操作したりすることができます。

その際にコードを記述するときは、「.」でつなげて記述します。

[書式]
オブジェクト. プロパティ

さらにもう少し具体例を挙げてみましょう。

■セルの値を操作するには「Value プロパティ」

先ほどの例では「山田君のプロパティ」をあらわしました。

セルにも、「セルのプロパティ」があります。中でも、セルの値を操作するための「Value プロパティ」というプロパティが代表例です。

対象（オブジェクト） 状態（プロパティ）

Range("I2") .Value

セル の値

[書式]

Range(場所).Value

[例]

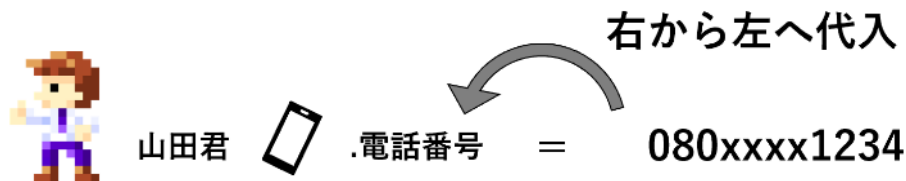
Range("I2").Value 'セル I2 の値

セルの値を操作するためには、Range(場所).Value といったコードを記述します。
例えば「Range("I2").Value」というコードは、「セル I2 の値」という意味になります。

■プロパティに値を代入する

続いて、「プロパティに値を代入する」ということについて説明します。

例えば、もし「山田君の電話番号」を、新しい電話番号(080xxxx1234)に変更したいというケースを考えてみましょう。



その場合は、以下のようなコードで表します。

山田君.電話番号 = 080xxxx1234

上記のようなコードで、「山田君の電話番号プロパティに、080xxxx1234 を代入する」という意味になります。

■補足

気をつけていただきたい点ですが、ここでの「=」という記号は「等しい」という意味ではありません。ここでの「=」は、「右から左へ代入する」という意味になります。「=」を見た時には、「←」という記号に置き換えて考えると意味が理解しやすいでしょう。

■セルに値を代入する

セルに値を代入するコードについて解説します。

[書式]

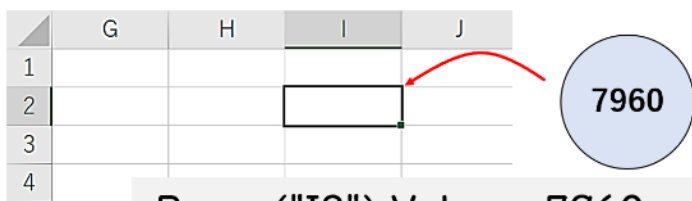
```
Range(場所).Value = 値
```

[例]

セル I2 の値に「7960」を代入する

```
Range("I2").Value = 7960
```

例えば、I2 に「7960」という値を代入するコードを解説します。



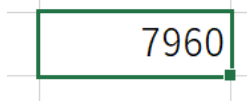
```
Range("I2").Value = 7960
```

セルI2 の 値 ← 7960を代入

```
Sub dainyu()  
    Range("I2").Value = 7960  
End Sub
```

上記のコードは、

「セル I2 の値に、7960 を代入する」という意味になっています。
マクロを実行すると、セル I2 に 7960 という値が代入されます。



■セルを操作する方法(3-2)のまとめ

ここまで3-2 で学んだポイントをまとめます。

マクロでは、「セルの値」を操作することが非常に多くなります。本章の内容が基礎になるので、しっかり理解しておきましょう。

- セルを指定するには、「Range(場所)」と書く。
- 操作する対象を「オブジェクト」と呼ぶ。セルも、オブジェクトの一種である。
- オブジェクトの状態のことを「プロパティ」と呼ぶ。
- セルの値を操作するには「Range(場所).Value」と書く。(Value プロパティ)
- セルの値を代入するには「Range(場所).Value = 値」と書く。

<<こちらは書籍の第1章～3章までのお試し版です>>

本書をお読みいただきありがとうございます！

こちらは、現在、有料で発売中の書籍「2時間でExcelマクロの基本がわかるVBA超入門」の第1章～3章までを読むことができる『お試し版』です。



お試し版と有料版の書籍の比較

	お試し版 (この本)	有料版の書籍 (Amazon で販売中)
内容	3章まで 約 28 ページ	12章まで 約 117 ページ
フォーマット	PDF のみ	ペーパーバック (紙の本) Kindle 電子書籍
読者特典	なし	あり たった1行のコードで仕事に役立つマクロ集(18以上)
動画や教材ファイルへのリンク	なし	あり

有料版の書籍をお求めの方は、Amazon にてお求め下さい。

<https://amzn.to/3WFZHuQ>



それでは、今後もよろしくお願いします！

たてばやし淳

著者プロフィール



たてばやし 淳

1986年生まれ、横浜育ち。オンライン動画でITスキルを教える人気講師。20代では「**地獄のトリプルワーク時代**」があり、昼はIT企業で働き、夜は学習塾で講師をし、土日やスキマ時間では経理や事務仕事をするという日々を過ごす。「このままでは**休む間もない**…」と悩んでいたところ、マクロなどの自動化スキルに会う。自動化をフル活用することで時間の余裕を生み出せるようになり、現在は仕事と子育てを両立できるようになる。「**多くの読者にも、仕事を自動化してラクにする方法を伝えたい**」という想いから、Excelやマクロ関連の書籍を執筆するなど発信活動を行う。YouTube 総再生回数 1000 万回、チャンネル登録者数 9.2 万人。また、ベネッセコーポレーションと提携する世界最大級のオンライン動画教育プラットフォーム「Udemy」にて 11 万人以上の受講者へ動画コースを展開中。著書に『ExcelVBA 塾 ~初心者 OK! 仕事をマクロで自動化する 12 のレッスン』『ExcelVBA 脱初心者のための集中講座』（マイナビ出版）、『エクセル兄さんが教える世界一わかりやすい MOS 教室』（PHP 研究所）がある。

奥付

書 名 【お試し版】2 時間で Excel マクロの基本がわかる VBA 超入門

著 者 たてばやし 淳

発行者 株式会社 tone¬es

連絡先 <https://www.excel23.com>

©2022 たてばやし 淳

2023 年 1 月 1 日 初版 発行

2023 年 1 月 2 日 第 2 版 発行

本作品の全部または一部を無断で転載、複製、改竄、改変、翻訳、翻案、インターネット上に掲載すること、および有償無償に関わらず本データを第三者に譲渡することは法律により禁じられています。

■免責事項

本書中に登場する会社名および商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。本書では™または®マークは省略させていただいています。